

**EAGLEパイロット試験設備におけるCO<sub>2</sub>分離回収試験開始について**  
～ 国内初、石炭ガス化プラントと組み合わせたCO<sub>2</sub>分離回収試験を本格的に開始 ～

J-POWER（電源開発株式会社、社長：中垣喜彦）は、若松研究所（北九州市）に設置してある多目的石炭ガス製造技術開発（以下「EAGLE」：Coal Energy Application for Gas, Liquid and Electricity）パイロット試験設備において、昨日より国内初となる石炭ガス化プラントと組み合わせたCO<sub>2</sub>分離回収試験を本格的に開始しました。

本CO<sub>2</sub>分離回収試験設備は、地球温暖化対策として課題となっているCO<sub>2</sub>削減に向けたCCS（Carbon dioxide Capture and Storage）の実用化を念頭に、EAGLEの酸素吹石炭ガス化プロセスから発生する合成ガスからCO<sub>2</sub>を分離回収するシステムの検証を行うためのものです。

このシステムは、ガスタービン燃焼の前にCO<sub>2</sub>を分離回収するいわゆる「燃焼前回収方式」であり、対象ガスのCO<sub>2</sub>濃度が高いことから、既存の微粉炭火力発電向け分離回収技術（燃焼後回収方式）と比べてより効率的にCO<sub>2</sub>が回収できるものと期待されています。

本設備は、平成 19 年度より設計・製作に着手し、本年 8 月に既設の EAGLE パイロット試験設備への追設工事を完了しました。9 月から設備の初期調整を開始し、昨日から、国内初となる石炭ガス化プラントと組み合わせた定格処理ガス流量 1,000m<sup>3</sup>N/h の CO<sub>2</sub>分離回収試験を行っています。

今後は、平成 21 年度までの試験研究期間において、石炭ガス化発電システムへの CO<sub>2</sub>分離回収技術の適用性と運用性を検証する予定です。

なお、EAGLE は、(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）と J-POWER との共同研究事業として進められています。

<CO<sub>2</sub>分離回収試験設備仕様>

- ・処理ガス量： 1,000m<sup>3</sup>N/h（既設 EAGLE パイロット試験設備生成ガス量の 1/10 程度）
- ・CO<sub>2</sub>回収率： 50～90%（炭素基準）
- ・回収 CO<sub>2</sub>純度： 99%以上

<別 紙>

1. EAGLE パイロット試験設備システムフロー
2. CO<sub>2</sub>分離回収試験設備外観

以 上